

## 28Q-am087

アンケート調査による東北薬科大学 OSCE の実施体制の検証

○林 貴史<sup>1</sup>, 三浦 裕恵<sup>1</sup>, 金野 由美子<sup>1</sup>, 中村 仁<sup>1</sup>, 岸川 幸生<sup>1</sup>, 上井 幸司<sup>1</sup>, 鈴木 常義<sup>1</sup>, 水柿 道直<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東北薬大)

【目的】平成21年度より薬学の客観的臨床能力試験（OSCE）が実施されるが、東北薬科大学では、平成20年度のトライアルを9月に実施した。本トライアルの特徴は、本番を想定し、2日間、新課程の入学定員分の学生を対象として各評価者が2ステーションを担当するというものである。このトライアル後にアンケート調査を行い、本学での体制整備の問題点の抽出を試みた。

【方法】トライアルは6課題を2日間で、1ステーションにつき8レーンを設置し、対象学生は旧課程の4年次学生より330名を選んで実施した。アンケートは1日目（3課題）終了時および全日程の終了後に評価者、運営スタッフおよび参加学生を対象に行い、その回答記載をもとに集計して調査結果とした。

【結果】来局者対応の評価者の半数は、課題実施ステーション間の移動時間（2分）が「（やや）足りなかった」、会場の広さや設営状態が「（やや）悪かった」と回答した。また、自由記載のコメントは、「課題実施レーンへの移動がわかりにくい（学生）」、「隣のレーンの声が聞こえる（評価者）」、などの回答が寄せられた。

【考察】来局者対応の評価者の半数がステーション間の移動時間が「足りなかった」と回答していた理由として、隣のレーンとの距離をおくことやレーン外部から見えないようにするために設置された多数のパーテーションが、ステーション全体の構造を複雑にしまったと考えられた。さらに、「隣のレーンの声が聞こえる」と回答していることを考慮すると、来局者対応の会場設営に関して抜本的な見直しが必要であることが示唆された。薬学共用試験センターから指定されるOSCE実施課題には、患者役や医師役などと薬剤師役とのやりとりを試験するような課題が想定されることから重点的に検討を要するものであると考えられる。